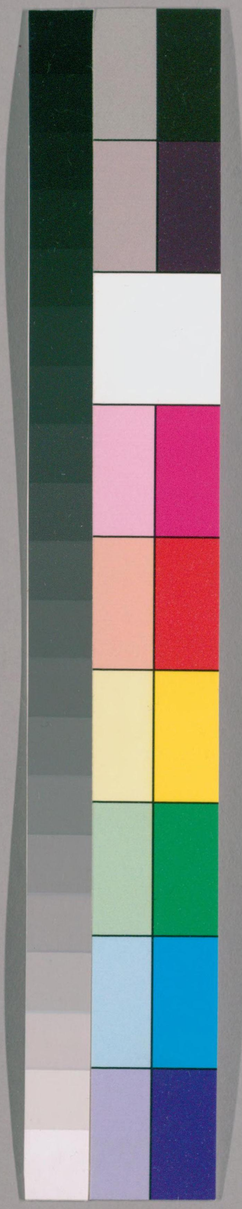
野鼠記
全
859
94



国立国会図書館　タイトル『野鼠記』　請求記号 859-94

ガラス使用

859-94

野鼠記

全

帝國圖書館

国立国会図書館　タイトル『野鼠記』 請求記号 859-94

ガラス使用

安政二年乙卯野鼠記

私領分石見國濵田村ノ内當三月上旬ヨリ野鼠夥敷生シ耕作喰荒シ村方致難儀候ニ付吉申出候間役筋ノ者差出為狩取候ニ共未減少不致田畑苓弥喰荒シ何分難狩盡此上無油断狩取候様申付置候

狩取候鼠數左之通

野鼠數九千二十四万九百九十疋程

右之通御座候ニ付収納ニモ相響可申候ニ付此段御届申上候以上

七月十三日

石州村々ニ相生シ矣野鼠狩矣趣申上矣書附

私御代官所石州村々野鼠夥シク相生シ矣処村々
麥其外喰荒シ夫食差支矣段許出矣間手附手
代差出防方狩取方為及差図差向夫食差支矣村
々ハ寄持人共差出矣貸附銀ヲ以夫食貸渡矣
旨先般御届申上置矣処差出矣手附手代共儀廻
村致シ防方狩方等精々及差図矣ニ付村々ニテモ老
若男女不残罷出精致シ當五月八日ヨリ同晦日迄
野鼠三十五万四千八百五十八疋狩取當節モ精々世
話仕狩取方為取計申矣多分ノ野鼠ニテ大小豆時
村矣ニ直様堀穿矣多ノ稲草モ畔道ヘ喰倒シ矣
ニ共麥作喰荒シ矣節ニ見合減矣方ニ相見矣ニ付
大小豆再蒔付方申付矣儀ニ御座矣依之御届申上
矣以上

卯七月

屋代増之助

朱書　本文野鼠狩取方ノ儀手附手代出役差
図仕書面ノ通多分員数狩取矣節村々一同殊ノ
外気勢ヲ引立晝夜トナク毋精ヲ尽シ右員数ノ外
水瓶ヲ埋置籾売ヲ蒔夜分右水中ニ落入死失仕

松平右近將監

国立国会図書館　タイトル『野鼠記』　請求記号 859-94

ガラス使用

矣モ数多ノ儀ニ有之且其上去月下旬頃ヨリ村
々エ毛色黒ク胴短キ鼬数足出右野鼠ヲ追カ
ケ矣故棄外ノ助ヲ得一ト際野鼠ノ減方モ相見
エ矣儀ニ御座矣
　岡部彈次郎ヨリノ書中抜書
野鼠ノ儀多分ニ狩取矣エ共未タ少不致村々ヨリ
ハ追々夫食拝借等願出矣ナトノ儀ニテ相應ノ取
込罷在右鼠ハ熊笹ノ根茅ヨリ化生致シ矣儀
ニモ有之ト存居矣処両三日前濱原村百姓代善右
衛門ト申モノ罷越同人父ハ同村十兵衛ト申モノニテ
都賀行村ニテ鉄山稼居矣処右狩家人共同村山内
ニテ笹ノ実鼠ニ化生致矣ヲ一株程モ見小籠エ入持帰
リ善右衛門モ一見仕矣由米粒位ヒニテ尾ノ先エ笹
ノ実売ヲ付居矣分モ有之ウルメキ居少々大キ成分
ハ鼠ト慥ニ相見矣由申聞左矣ハ、笹ノ実茅ヨリ
化生致矣義モ可有之哉左様ニテハ夥シキモ尤ノ儀ト
奉存矣先年野鼠相生矣節ハ鼬夥シク海中ヨリ
上陸致シ右鼠ヲ取絶シ矣由ニ申傳有之矣テ當
春中ヨリ承居矣儀ニ矣処此節御廟書ノ通鼬有
之村々多分ニ相成場所ニ寄矣テハ三四十位群歩行

国立国会図書館　タイトル『野鼠記』 請求記号 859-94
ガラス使用

矣由無相違右ニテ鼠取絶シ矣様仕度モノニテ尤
先年大暑中ニハ絶矣儀トカ稲作ノ障等ニハ不相
成体ニ相聞申矣 下暑

六月七日

此頃出羽國最上邊遠ノ由鼠群集出田畑ヲ荒シ矣
趣依之御代官羽田十左衛門殿ヨリ荒増ノ処御届ニ
相成矣由

此鼠毛色赤ク家ノ鼠ヨリハ形小サク腹白ク尾
短ク山方ニテハ平生モ見掛矣義モ有之仙臺辺
山平ヨリ移リ矣由右ハ一昨丑年旱ニテ生業変生
致シ矣義ニモ可有之ナト、申居矣趣ニ御座矣

羽田十左衛門

御代官松永善之助支配出羽國村山郡入間村百姓
清右衛門外一人三十七ヶ村惣代願筋右之當奉行
支配所ニ罷出矣処願面之内鼠ノ事ニ認有之矣ニ
付相尋矣処村山郡三十七ヶ村ハ奏所ニテ百姓一体
ノ奏邑右ノ金ヲ以年貢上納致来矣処数万疋ノ鼠
ワキ出田畑等不残喰荒シ夫ヨリ三十七ヶ村百姓寮
ニ鼠悉ク押込奏不残喰其外ノ村方ハ百姓夫食困
ノ分喰矣由御届申上矣以上

但シ腹下白キ鼠有之又ハ白ケテ黒ケテ色々ノ鼠有之

国立国会図書館　タイトル『野鼠記』 請求記号 859-94
ガラス使用

七月

ヌ桑折源藏

奥州松前領江差湊ノ正面ニヲクシリ云島アリ臨肭臍鮡又帆立貝等ヲ多ク產スル所ナリ此島ニ鼠ト蛇ト夥シ然トモ其出ルヿ隔年ニシテ鼠出ル年ハ蛇一疋モ出テス蛇出ル年ハ鼠一疋モ出ス松前家ヨリ出勤致居役人ノ膝元或ハ鎧櫃又ハ文庫杯ノ辺ヲ群集奔走スルヿ甚シケレモ一切ノ器物ヲ嚙損スルヿ少シモ無之此鼠海底ニ入リ帆立貝ノ肉ヲ喰ハントスルヿ往々アリ其時帆立貝已カ蓋ヲキヒシクシメル故ニ鼠進退ヲ不得シテ其マヽ自滅スルヿ折々アルナリ惣テ此辺ノ鼠海底ヲ歩ムヿ陸ニアルト同シ往昔右江差ノ九艘川（クソウカハ）ト云処ヘ数万ノ鼠海底ヲ経日游渡リシ云其鼠皆腹少シ赤シ此鼠ハ本本何物ノ化シタルニヤ

椿室

錫夫按礼記郊特牲迎貓為其食田鼠也月令田鼠化為鴽トアリ諸註共ニ鼹鼠トス田間ニスミテ土ヲモチテ害ヲナスモノニテ農事ノ妨ヲスレハナリ然ニ歴史ノ五行志ナトニ田鼠害稼ト云ヿ往々ミエタリ按ニ此又一種ノ田鼠ニシテ尋常ノ鼹鼠トモ思ワレス晋太康四年會稽彭蜞及蟹皆化

国立国会図書館　タイトル『野鼠記』　請求記号 859-94
ガラス使用

鼠甚衆復大食稲為災又本草綱目時珍説
ニ隆慶辛未夏秋大水蘄黄頻江之地鼢鼠遍
野皆櫛魚所化蘆稼之根嚙食殆盡ト云シモノ當
年石州ノ鼠ト同日ノ談ナリ石州ノモノ常鼠ト
矣ナリヤ又鼹鼠ニシテ平日土ヲモチアクルモノト
同形ナリヤ委シキ事ヲ研究シタキモノ之定テ一
種ノ鼠ニシテ形狀モ異ナルヘク存矣
岩永藿齋云去日石州問屋ニテ陰乾土鼠一見
仕矣大サ三寸許毛強ク少赤ヲ帶四足白色ナリ
豆大根等ノ根ノ傍ニ入リ食シ申矣大氐網ニテ

取リ又ハ桶様ノ物ニテ捕矣由米穀ニハ付不申一
昨年銀山ニ生シ竹実ヲ噉盡シ當年ハ濱田ニ来
矣由享保ノ比箱根山竹ヲ噉シ事有之由其後
竹根悉蟬ニ化シ矣事モ有之隨筆ニ出タリ當
春淡州岩屋冲網ヲ打鼠ヲ網シ矣由奥州鼠
ノ関ハ往古海中ヨリ鼠上リ矣故関ヲ構ヘ捕矣
跡依テ鼠ノ関ト云ト云々此度ハ土鼠ト云

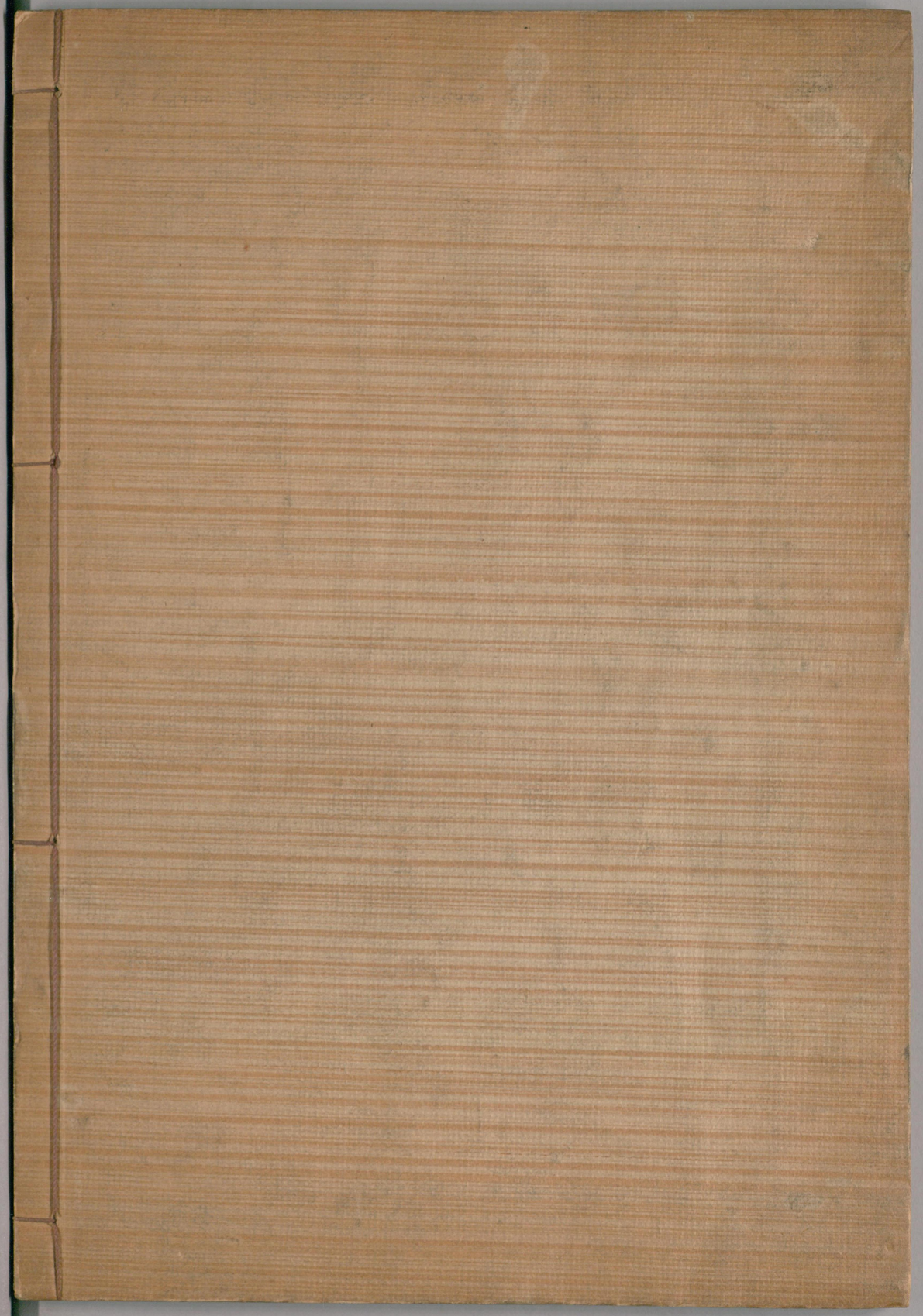
国立国会図書館　タイトル『野鼠記』　請求記号 859-94
ガラス使用

十七日中川氏ヲ辞シ舟ヲ雇テ大津ニ至リ舊路ニ従
テ京ニ帰ル

859
94

国立国会図書館　タイトル『野鼠記』 請求記号 859-94

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『野鼠記』　請求記号 859-94

ガラス使用